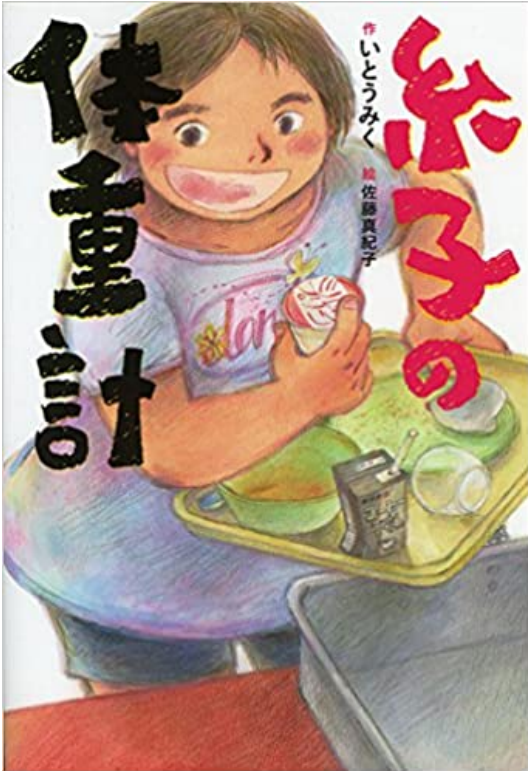


『糸子の体重計』

～六年生 国語<この本、読もう>33ページ



表紙の絵は体格のよい女の子が元気に給食を平らげている絵です。斬新なタイトルだと感じつつ、読んでみました。

とても面白いお話でした。五人の小学五年生それぞれが主人公の短編集です。

心も身体もポジティブな糸子を中心に、敵対している町田さん、町田さんにくっついてる坂巻さん、糸子と体格は似ているけれど性格は真逆な高峯さん、お調子ものだけど心にはさみしい気持ちを抱えている滝島くん。最近の五年生はこんなに大人っぽいの？と驚愕しつつも、どこかで自分の身にも置き換えやすく、心にすっと馴染みます。

登場人物達の描写がわかりやすいです。遠回しの表現はあまりなく、悩まず読み進められます。

小学校5・6年生は、友達地図が変わり始める時期です。中学生になれば、それまでの価値観とはまた違ったベクトルでクラスメイト達を見つめることになります。その萌芽が見えるのがきっと小学校5・6年生なのだと思います。

町田さんにとっての糸子は、そんな思春期の入口で出会ったかけがえのない友達なのではないでしょうか。もし自分の子どもが今までとはタイプの違う友達を連れてきたのなら、それは大人への入り口に立った合図なのかもしれません。

- 読むのにかかる時間 1日
- 単行本 256ページ
- 童心社